

2012年7月19日(木)
メディカル・データ・ビジョン株式会社

患者約425万人の診療データを集約
医療分野のビッグデータ活用でEBM(根拠に基づいた医療)の確立・推進を目指す
製薬会社向け診療データ分析ツール「MDV analyzer」
2012年8月1日より提供開始
～ 日本初、薬剤と疾患の両データを日単位で分析可能に～

医療情報のネットワーク化を推進するメディカル・データ・ビジョン株式会社(本社:東京都千代田区 代表取締役:岩崎 博之 以下、MDV)は、薬剤と疾患の両データを日単位で分析可能な機能を日本で初めて搭載した、診療データ分析ツール「MDV analyzer」(エムディーブイアナライザー)を2012年8月1日より提供開始いたします。当該ツールを利用することで製薬会社は、従来では不可能だった多角的な薬剤処方実態の分析を行うことが可能となります。

< サービス提供の背景 >

昨今、日本の医療業界ではEBM(Evidence based medicine = 根拠に基づいた医療)への関心が高まっております。スウェーデンをはじめとする北欧諸国では、膨大な医療データが国の政策として蓄積され、先進的なEBMが実施されています。一方で日本は、EBMを実施するための医療データベースそのものが不足しているのが現状です。

日本の製薬会社や研究機関においても薬剤の処方実態分析に対する注目が今まで以上に集まっておりますが、データベースが不足しているために、莫大な時間と費用が発生する市販後調査を実施せざるを得ない状況でした。たとえ市販後調査を行ったとしても、どのメーカーの薬剤がどのような診療科でどのような疾患に処方されているのか、どのメーカーのどの薬剤に効果が現れているのか、などの具体的な処方実態をつかむのは困難です。

これまでMDVは「EBM-ASP」というサービス名で薬剤処方実態の分析ツールを実験的に提供しておりましたが、製薬会社や研究機関の皆様より、より詳細な分析が可能なツール開発への期待を寄せていただきました。特に、日本の既存のサービスでは不可能である“薬剤と疾患の両データを日単位で分析可能な機能”へのご要望を多く頂いたため、この度、日本で初めて当該機能を搭載した診療データ分析ツール「MDV analyzer」の提供を開始することになりました。

< サービス提供のメリット >

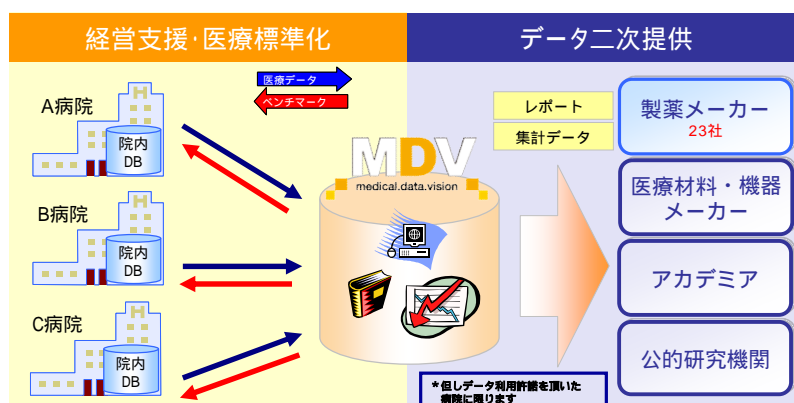
製薬会社：今まで以上に処方実態に基づいた確実なマーケティング・販売戦略の確立が可能になります。

病院：許諾をいただいた病院へもデータを提供いたします。通常ではオープンにされない他院の処方実態を参考にしながら、患者への薬剤処方を決定することが可能になります。

患者：今まで以上にデータに基づいた、より自分にとって適切な薬剤処方を受けることが可能になります。また長期的には、当該データを活用した製薬会社による新薬開発により、より効果的な薬剤処方を受けることが可能になります。

< サービス概要 >

「MDV analyzer」は、当社が提供する商品であるDPC分析ベンチマークシステム「EVE」を導入している649病院のうち、許諾を得た約124の急性期病院に提供いただいている(2012年6月末日現在)診療データを蓄積したWEB分析ツールです。疾患や薬剤だけでなく、手術や検査などの実際の診療行為を基点とした多角的な分析が可能です。



1. 特徴

日本初の日単位分析

他の日本の既存サービスでは不可能な“薬剤と疾患の両データを日単位で分析可能な機能”を搭載しています。

圧倒的なデータ量

日本の既存サービスの約4倍のデータ量となる、急性期病院(DPC対象)の約8%、400万人強のデータを保有しています(レセプト件数にして60万枚以上/月)。

データの細かさ

- ・病名、全診療行為、薬剤情報について日単位で所持しているため、投薬の処方日数や数量の把握が可能です。
- ・通常は包括請求になるDPC請求下における診療行為の分析が可能です。
- ・退院サマリー(様式1ファイル)から、身長体重、腫瘍ステージ、入退院経路等の診療情報も解析可能です。

社会保険・国民保険・後期高齢者データを保有

病院から直接データを収集しているため、全保険種類のデータを保有しています。処方比率の高い高齢者への薬剤処方実態も分析可能です。

2. 主な機能

処方数分析・処方日数分析

薬剤Aの平均処方量、処方患者数、薬剤Bと薬剤Lを併用している患者数・処方金額、疾患B患者における薬剤Cの平均処方日数などが分析可能です。

診療科分析

薬剤Aを処方している診療科、疾患B患者に薬剤Cを処方している診療科などが分析可能です。

薬剤・疾患ランキング分析

疾患Aで処方されている薬剤一覧、薬剤Bと併用されている薬剤一覧などが分析可能です。
薬剤Aを処方されている疾患ランキング、疾患Bと併発している疾患ランキングなども分析可能です。

併用・併病パターン分析

薬剤A、B、Cの組み合わせパターン毎の患者数、疾患D、E、Fの組み合わせパターン毎の患者数などが分析可能です。

情報配信

PMDA(独立行政法人 医薬品医療機器総合機構)からの安全性情報、新薬に関する情報を掲示します。

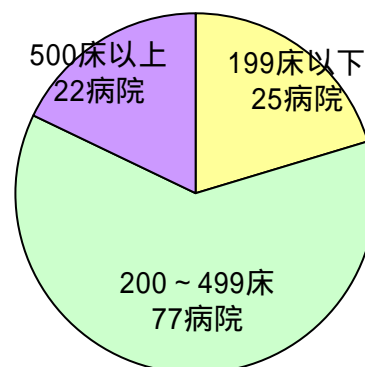
3. データ提供施設

DPC対象の急性期病院1,504病院のうち、約8%にあたる124病院からデータ提供をいただいております。
がん拠点病院41病院(国指定26病院、都道府県指定15病院)を含む。

項目	データ取り込み完了(外来データ使用可能)
病院数	124病院(100病院)
病床数	43,183床(34,127床)
平均病床数	348床(341床)

年代別実患者総母数(2008年4月～2012年3月)	
0～14歳	13.5%
15歳～64歳	52.3%
65歳以上	34.2%
合計	425万人

データ提供病院構成



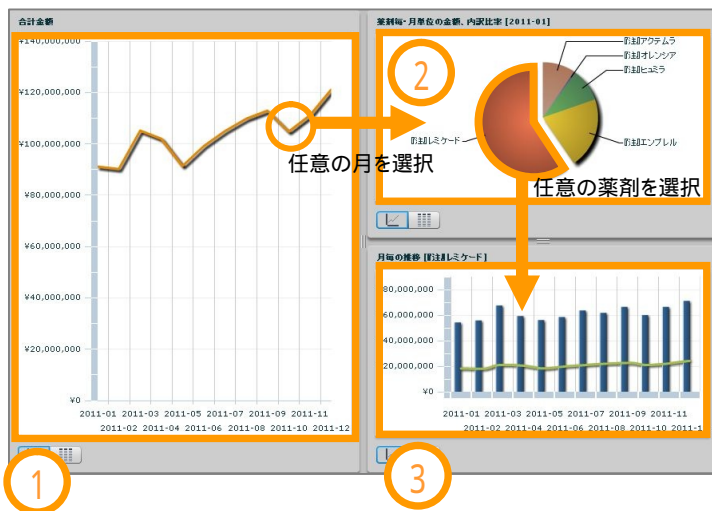
(注)「3. データ提供施設」の記載数字は2012年6月末日現在

4. 価格

2,000万円(年間)

<主な機能のイメージ>

ダッシュボード



「MDV analyzer」のトップ画面である「ダッシュボード」では、薬剤の市場動向や市場シェアを簡単に確認することができます。各グラフは、金額ベース・患者数ベースの切替が可能です。

各薬剤群における市場規模の確認
任意の薬剤群を選択すると、その薬剤群の市場規模推移を確認できます。

各薬剤シェアの確認
のグラフで任意の月をクリックすると、その月における薬剤シェアを確認できます。

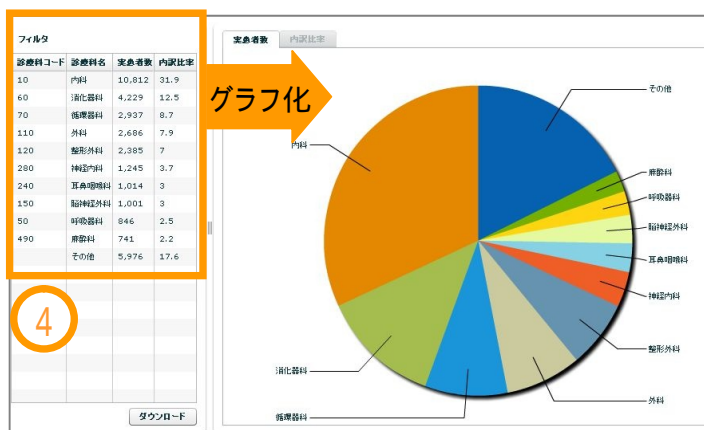
各薬剤における月次動向の確認
のグラフで任意の薬剤を選択すると、その薬剤の月次動向を確認できます。

診療科分析

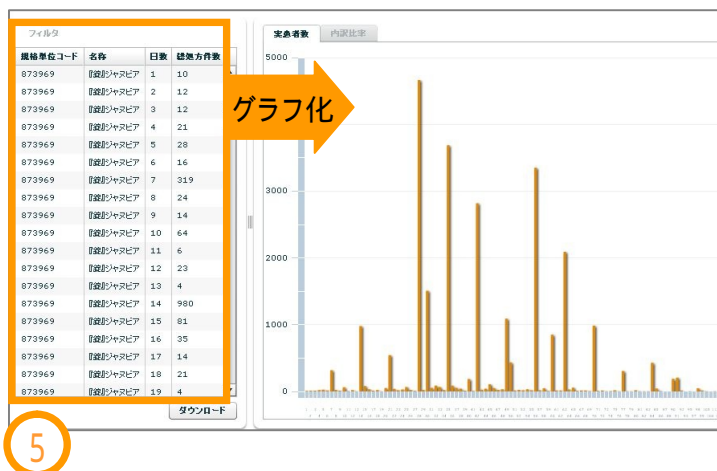
適応疾患を多く持つ抗菌剤などは、診療科ごとの処方実態を把握するのが困難でした。

「MDV analyzer」の「診療科分析」では、任意の薬剤における診療科毎の処方実態の把握が可能です。自社製品と競合製品の各診療科における処方実態を比較することも出来るため、効果的な販売戦略を策定することが可能です。

診療科毎の処方実態の確認
任意の薬剤について、診療科毎の処方患者数と、その比率を確認できます。



処方日数ヒストグラム



日単位の診療情報を背景にした「MDV analyzer」において、一番の特徴的な分析が「処方量・処方日数分析」です。

特に、「処方日数ヒストグラム」では、メーカ各社が推奨する日数で薬剤が処方されているか、長期処方の解禁に伴った処方日数の伸びが表れているか、などの実態を把握することが可能です。併せて「処方量ヒストグラム」も同様の分析を行うことが可能です。

薬剤処方日数の確認
任意の薬剤について、各処方日数の患者数を確認できます。